

CENTENARY OF  
THE CRANE BORN OUT TROUBLE

# 有島武郎 × 木田金次郎

2018  
11月23日(金) - 12月16日(日)

※11月26日、12月3日、10日は休館  
9時～17時(最終入場16時30分)

出版100年記念

『有島武郎』

『生れ出づる悩み』と

画家の木田金次郎

ニセコ展

- 【観覧料】常設展観覧料のみ鑑賞可※(※は10名以上の団体料金)  
常設展観覧料▶一般500円(400円) / 高校生1000円 / ニセコ町民は無料
- 【会場】ニセコ町・有島記念館 特別展示室
- 【主催】有島武郎・木田金次郎プロジェクト実行委員会・ニセコ町・有島記念館・岩内町・木田金次郎美術館、巡回企画展「出版100年記念 有島武郎『生れ出づる悩み』と画家・木田金次郎」実行委員会
- 【協力】有島記念館友の会「土香る会」、平成の『生れ出づる悩み』実行委員会
- 【助成】一般財団法人地域創造
- 【関連イベント】「じんざんニセコ&講演会」  
12月15日(土) 13時開始(1時間半程度)  
講演 谷口雅春氏(ライター)ほか

ニセコ町・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 Tel.0136-44-3245



この展覧会はサマージャンポ宝くじの収益金を活用して実施しています



この小説が1918(大正7)年に発表されてから、今年で100年を迎えます。本作は1910(明治43)年、有島がのちの画家・木田金次郎と札幌で奇跡的に出会い、そしてその7年後にニセコの地で再会を果たした事実をモデルに執筆された作品です。有島武郎と木田金次郎—この生き方も立場も異なる2人がなぜ結びつき、交流を重ね、この小説が生まれたのでしょうか。また木田が有島の示唆に従い、故郷・岩内の自然と深く対峙していく背景には何があるのでしょうか。

出版100年記念  
有島武郎  
『生れ出づる悩み』と  
画家 木田金次郎  
ニセコ展

本展では、有島と木田の2人の交友や人生を軸に、両作家の作品や資料を通して、この小説の背景にある「物語」を紐解きます。

小説発表100年、有島生誕140年、有島記念館開館40年を記念して、有島が今も眠る「東京府中」、有島と木田との出会いの地である「札幌」、再会の地である「ニセコ」、木田の活動の中心である「岩内」を巡る巡回展です。ニセコ町にて木田金次郎作品が約60点ご覧いただける貴重な機会です。

有島武郎

1878(明治11)年、東京生まれ。学習院中等科卒業後、札幌農学校に進学。1903(明治36)年、アメリカに留学。帰国後は東北帝国大学農科大学(現・北海道大学)にて教職に就く。この時期、武者小路実篤、志賀直哉、弟で画家の有島生馬、同じく作家の里見弴とともに『白樺』同人となり、作品を発表し始める。1916(大正5)年、妻と父とを相次いで亡くし、翌年には大学も辞職。この時期を境に、『カインの末裔』『小さき者へ』『生れ出づる悩み』『或る女』などを発表し、大正期の文壇に作家としての地位を確立。小説のほか、童話、戯曲、社会評論など多岐に渡って執筆活動を行う。1922(大正11)年、思想と実生活の一元化を求めて、北海道狩太(現・ニセコ町)に不在地主として所有する「有島農場」を小作人による土地共有を前提として無償解放。翌年、軽井沢にて自死。



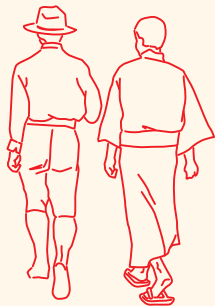
雑誌「白樺」第4巻第7号



有島武郎「黒百合会の学生たち」1909年



有島武郎「花」1923年



木田金次郎「岩内山」1958年



木田金次郎「波」1958年



木田金次郎「ポプラ」1924年

小説家・有島武郎の代表作と称される  
『生れ出づる悩み』

木田金次郎

1893(明治26)年、岩内生まれ。家業である漁業を続けながらも、絵画への情熱を育み、有島武郎との運命的な出会いにより、その生涯を岩内で過ごし、絵筆を握ることを決心。やがて有島が、木田青年との交流を小説にし、『生れ出づる悩み』として出版すると、そのモデル画家として知られるようになる。有島の激励を受けながら、厳しい漁師生活のなかで岩内周辺の自然を描き続け、有島の没後、漁業を次第に捨てて画業に専念。1954(昭和29)年岩内大火(市街地の8割を焼失)により、それまでの作品約1,500点余を焼失したが、その後、精力的な創作を続け、生涯、故郷岩内を離れることなく、独自の画境を切り開く。1962(昭和37)年脳出血により逝去。享年69才。

\*詳細は当館ホームページまたはお電話でご確認ください。\*敬称略

関連イベント

どんぞ忌 inニセコ&講演会

「どんぞ忌」は、木田金次郎の命日(12月15日)に故人を偲んで木田金次郎美術館で毎年開催されている事業です。今年是有島記念館においても開催し、有島と木田のルポを執筆したライターの谷口雅春さんと有島・木田両館学芸員とのクロストークを開催します。

[日 時]12月15日(土) 13:00開始(1時間半から2時間程度)  
[講 師] 谷口雅春(ライター)ほか  
参加無料(要観覧料)

中世ヨーロッパの響き  
ハンマーダルシマーの調べ

[日 時]12月8日(土) 12:30開場 13:00開演  
[講 師] 小松崎健(ハンマーダルシマー奏者)  
[演奏曲] ダニーボーイ、サリーガーデンほか  
参加無料(要観覧料)

学芸員による展示解説

展示作品などについて担当学芸員が解説します。  
[日 時]12月8日(土) 15:00(コンサート終了後)  
[講 師] 伊藤大介(当館主任学芸員)  
参加無料(要観覧料)

有島を知ろう!武郎を読もう!  
—小・中学生の副読本を作ってみよう

有島作品に小・中学生が作品に馴染んでくれるような副読本を考えてみるワークショップ  
[日 時]12月16日(日) 13時開始  
[共 催] 土香会  
参加無料

ニセコ町・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM  
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 Tel 0136-44-3245

[交通アクセス]

自家用車 → 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間  
J R → ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km)、タクシー5分  
バ ス → 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分  
[駐車場] P → 自家用車用約30台・大型バス用約15台完備